

## ◆ 巻頭言

# アフガニスタン マラさんの思い出 —強制結婚、人権、そして日本政府の役割

土井 香苗

「あの男と結婚させられる。だからアフガニスタンに帰りたくないの。結婚しなければ、あの男の家族から殺される・・・」— 消え入るような声でマラさん（仮名）は言いました。2002年、日本で弁護士をしていた私は、たくさんのアフガン難民を弁護していました。マラさんもその一人でした。

ヒューマン・ライツ・ウォッチ（本部ニューヨーク）は世界80カ国の人権状況を監視する世界最大級の人権NGOです。日本代表である私の役割は、世界の人権侵害を解決するために日本政府の外交政策に働きかける「アドボカシー」（政策提言・ロビーイング）をすること。日本政府の影響力の強いアジア地域に特に力を入れて仕事をしており、アフガニスタンの女性の状況は常に関心事なのです。

2001年のアフガン戦争開始の大きな理由とされた「女性の解放」ですが、8年を経て、マラさんはもう強制結婚におびえなくてよくなったのでしょうか・・・。一旦は前進があったアフガン女性の状況ですが、近年、再び状況は悪化。女性たちは、今も強制結婚だけでなく、ドメスティック・バイオレンス、性暴力、名誉殺人<sup>(注)</sup>、公の場に出る女性に対する暴力、女子校への攻撃などにおびえています。

オバマ米大統領は今年3月、アフガニスタンについての包括的な新戦略を発表しました。イラク戦争が始まったせいで世界から忘れられていたアフガニスタンに、再び光が当たるようになりました。しかし、女性の権利への注目は足りません。多額の支援を申し出ている日本政府にも、ぜひ、女性の権利を守る分野などでイニシアチブを発揮してもらいたいと思います。アフガニスタンの女性の権利NGOは、国際社会の支援が不足して停止せざるをえないプロジェクトがたくさんあると訴えています。日本にできることは多いはずです。

(注) 女性の婚前・婚外交渉を一族の恥として、身内が女性を殺害する風習。中東アジアなどで根深くある。



## PROFILE

土井 香苗  
(どい かなえ)

国際NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京ディレクター（日本代表、2008.9～）、弁護士。大学在学中に司法試験に合格し、4年のときNGO ピースボートのボランティアとしてエリトリア（アフリカで最新の独立国）で、法律作りのボランティアを経験。2002年開業以来、日本にいる難民の法的支援や難民認定法改正キャンペーン／ロビーイングにかかわる。2006年ニューヨーク大学ロースクール（国際法）を修了後、上記NGO本部フェローを経て現職。著書に「ようこそ」といえる日本へ（岩波書店2005）、「テキストブック 現代の人権 第3版」（日本評論社2004）など。